

THE 60th ANNUAL MEETING OF

THE ANTHROPOLOGICAL SOCIETY OF NIPPON

NOVEMBER 3 — 5, 2006

KOCHI UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

第60回日本人類学会大会

平成18年11月3日（金）～5日（日）

高知工科大学



ABSTRACTS

P 1 8

シリア共和国デデリエ洞窟における年代推定—ナトゥーフ文化遺構の放射性炭素年代—

○米田 穰（東京大・新領域・人類進化） 仲田大人（青山学院大・文） 青木美千子（早稲田大・文） 近藤修（東京大・理・生物科学） 西秋良宏（東京大・博物館） 赤澤 威（高知工科大・総合研）

Age determination of the Dederiyeh Cave, Syrian Arab Republic

YONEDA, M., NAKATA, H., AOKI, M., KONDO, O., NISHIAKI, Y., AKAZAWA, T.

シリア共和国デデリエ洞窟では、中期旧石器時代のムスチエ文化層を中心に1989年より調査が開始され、1991年にはネアンデルタール幼児骨が発掘された。2003年より洞口部の調査にかかり、終末期旧石器時代ナトゥーフ文化層を中心に調査が継続されている。また、洞口部における試掘坑の調査では、前期旧石器末に相当する文化層が堆積下部に確認された。本発表では、2004年に調査されたナトゥーフ文化層の1号構造物の放射性炭素年代を中心に、北レヴァント地方のナトゥーフ文化における当遺跡の位置付けを議論する。あわせて、およそ前期旧石器時代および中部旧石器時代の文化層の理化学年代に関する取り組みを紹介する。